

平成22年度一般会計当初予算説明資料

7款 商工費

2項 工鉦業費

2目 中小企業振興費

産業振興総室(内線:7663)

(単位:千円)

事業名	本年度	前年度	比較	財 源 内 訳				備考
				国庫支出金	起 債	そ の 他	一般財源	
産学金官連携強化推進事業	5,663	5,592	71			600 (雑入)	5,063	
トータルコスト	15,345千円 (前年度 31,276千円) [正職員:1.2人]							
主な業務内容	イベントの共同開催、会議の開催、展示会への出展							
工程表の政策目標(指標)	産学金官連携の体制づくり及び県補助制度による企業支援の強化 (産学金官連携及び県補助金制度による事業化(H22年度:事業化件数4件))							
<p>説明</p> <p><b>1 事業の概要</b>            県内産業の高付加価値化に有効な大学等のシーズを基にした新製品開発等の産学金官連携による事業化事例の増加を図るため、「マッチングの機会創出」、「具体的な産学金官連携を産み出す体制づくり」に取り組む。</p> <p><b>2 事業内容</b></p> <p>(1) とっとり産業フェスティバル            県内の産学金官の関係機関により、企業の商品や技術及び大学等の研究成果を発信するイベントを開催。産産連携、産学連携の場及び企業のモニタリングの場を提供することで県内中小企業の製品開発や販路開拓を支援する。</p> <p>(2) 産学金官連携協議会            産学金官連携による県内産業の振興を図るため、各種会議等を体系的に位置付ける体制を構築。産学金官連携に係る各種事業を統括するとともに、ワーキンググループ形式で課題に取り組み、成功事例を創出する。</p> <p>(3) 産官学コーディネーター連携推進会議            県内の産業振興を担当する各機関のコーディネーターを対象に意見交換や研修を行い、コーディネーター間の交流を促進し、スムーズな産学金官連携に繋げる。</p> <p>(4) 産官学連携推進会議(京都会議)            毎年京都で開催される国主催の産学官連携展示会に、大学等と連携して出展。県内の大学や産業技術センターの持つシーズ(研究成果)や産学官連携の成果を全国に広くPRするとともにマッチングにつながる機会とする。</p> <p><b>3 これまでの取組状況、改善点</b>            「とっとり産業フェスティバル」においては、従来の「産官学連携フェスティバル」と「産業技術フェア」を一元化して開催。大学等の研究成果発表と企業の商品展示を同時に行うことにより、産学等のマッチングの場の提供、来場者への効果的なPR、事業費・トータルコストの効率化を図った。            (過去の産官学連携フェスティバルでは300~500名程度の来場者が2,150名へと大幅に増加。来場者、研究発表者、出展企業いずれのアンケート結果も非常に好評)            また、各種会議の開催やイベントの実施等により、県内には産学金官連携ネットワークが形成されつつあるが、より効率的かつ実践的に取り組むための連携体制を構築し、産学金官連携の成功事例の増加を促進する。</p>								